



WORK POWDER COATING

視覚と触覚にアピールする
輝きのディスクフィニッシュ

マットフィニッシュかと思えばジワリと輝く。しかし輝きのイメージはメタリックではない——
GNOSIS・シリーズの一部とシーカー・シリーズにニューフィニッシュ“パウダーコーティング”が用意された。

問●ワーク 西日本TEL.06・6746・2859 中日本TEL.052・777・4512 東日本TEL.048・688・755 www.work-wheels.co.jp
撮影●伊藤吉行 文●永田トモオ

WORK POWDER COATING

対応ブランド
GNOSIS GRシリーズ / CVシリーズ / HR201
マットブラック/マットシルバーより
¥25,000+税アップ
Seekerシリーズ
マットブラックより
¥25,000+税アップ
※受注生産のため
通常製品に比べ納期がかかります





テクスチャーダークブラス
(TXDB)
GNOSIS CVX

←↓コンケーブディスクにツイステッドメッシュパターンをデザインした、グノーシスCVXにはテクスチャーダークブラスの組みあわせ。細身のスポークなので見通しがいいが、ディスクのセンター部のコンケーブ具合が、スポークの反射光の流れでよく分かる



テクスチャーネイビーブルー
(TXNB)
Seeker MX

↓→シーカーMXのセンターディスクにテクスチャーネイビーブルーの組みあわせ。メッシュパターンながらフラットなディスク面なので、パウダーコート独特のメタリックな輝きがしっかり見せられる。ステップリムが効いて、ちょっとブラックアウト的な印象も



テクスチャーチャコールグレイ
(TXCG)
GNOSIS GR205

←↓ベーシックなツインスポークにはテクスチャーチャコールグレイの組みあわせ。明るめのカラーなので、センター部のナット穴まわりのディテールがハッキリと出てくる。近いフィニッシュをあえて挙げるなら、マットグラファイトだが、自己主張はより強い



WORK
POWDER COATING

面で見せるディスクの輝きは
ディテールまでも際立たせる

耐久・耐候性にも優れた
表情豊かな新感覚メタリック

クルマのボディカラーと同じように、ホイールのカラーやフィニッシュは、エクステリアコーディネイトの大きな要素だ。ムカシながらのシルバーやゴールドなど、定番こそあるものの、毎年のように新色が登場するクルマのボディカラー。それに合わせて、ホイールの方も、メタリック系のホイールカラーやフィニッシュのバリエーションを着実に増やし続けているワケだ。

中でも、最近ワークが追加ラインアップした、センターディスクのフィニッシュはかなりの個性派。POWDER COATINGとネーミングされたこのフィニッシュはこのフィニッシュ独特のメタリックな輝きが大きな特徴だ。

用意されるカラーは、テクスチャーダークブラス、テクスチャーチャコールグレイ、テクスチャーネイビーブルーの3色。これが、GNOSISのGRシリーズ、CVシリーズ、HR201。そしてSeekerシリーズに適用される。

特殊なフィニッシュなので、写真から見た目を完全にイメージするのは難しいが、あえて言うなら、物凄く繊細な結晶塗装に物凄く細かなフレイクが入っているようなイメージ。ザラリとした触感に見えるディスク面は、実はかなり平滑で、ハイライトが入るとジワリと広がるメタリックの輝きは、他にはちょっと見られないものだ。

新しいフィニッシュということで、コーディネイトが難しく感じるかもしれない。でも、カラーそのものはシックで馴染みやすいから、たとえば、ダークブラスはゴールド、チャコールグレイはシルバーかガンメタ、ネイビーブルーはマットブラックあたりに置き換えて考えると、かなり分かりやすくなると思う。

パウダーコーティングのメタリックな輝きは、大口径ホイール一発でキメるようなメイクにはもってこいだろう。一方で、フィニッシュがディテールを際立たせてもいるから、じっくりクルマを見せるようなメイクにも、しっかりハマるフィニッシュなのだと思ふ。